

北九州市議会

議会報告会

議会基本条例制定までの道のり

平成22年3月 議会基本条例検討会設置

**約1年半にわたり、条例案を検討。
(検討会9回、小委員会27回)**

**議員61名全員一致のもと条例素案を作成後、
パブリックコメントの実施や市民説明会を開催。**

**議会基本条例案は、平成23年9月定例議会において、
全員賛成で可決、制定され、10月1日より、施行。**

議会基本条例

北九州市議会においても市民との協働による開かれた議会の実現を目指し、市民への責任を果たすため、議会や議員の役割及び活動原則、議会と執行機関との関係及び議会と市民との関係等を明らかにし、市民の福祉の増進及び市勢の発展に寄与することを決意し、この条例を制定する。

(条例前文から抜粋)

議会基本条例第6条

(市長その他執行機関との関係)

第6条 二元代表制の下、議事機関である議会と市長その他の執行機関は、独立対等の立場で、適度な緊張関係と信頼関係を築き、相互の議論を深め、調整を行いながら、本市の意思決定を行う。

議会基本条例第14条

(議会報告会の開催)

第14条 議会は、必要に応じて議会報告会を開催し、市民への説明責任を果たすとともに、市民の意見を把握し、議会活動に反映させるものとする。

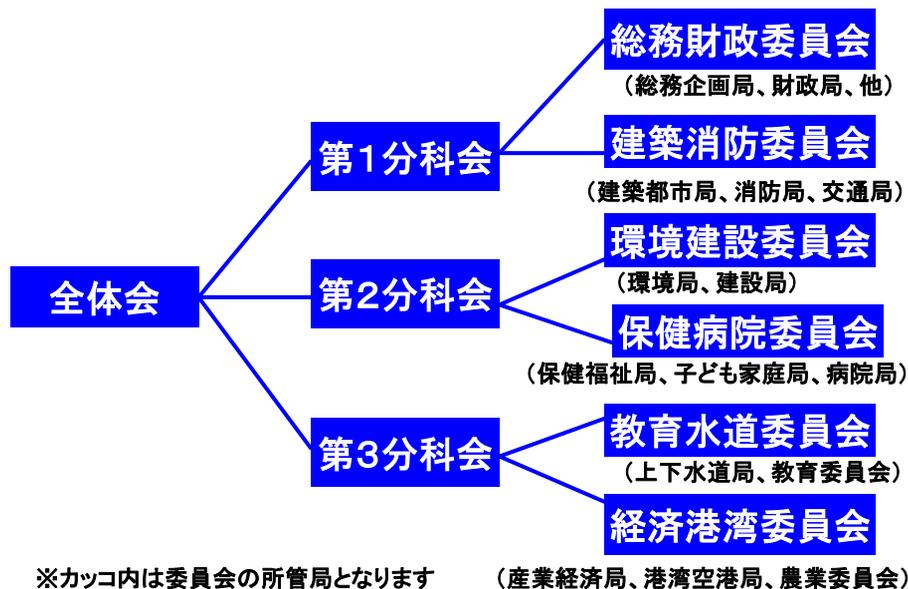
今任期中の議会報告会開催区

	平成23年 9月定例会	平成24年 2月定例会	平成24年 9月定例会
①	八幡西	八幡東	小倉南
②	小倉南	門 司	八幡西
③	小倉北	若 松	戸 畑

平成23年度 北九州市決算の概要

報告者
決算特別委員長
藤沢 加代

決算特別委員会の構成



北九州市会計 単位 億円

決算規模 歳入 歳出

1 一般会計 5,230 5,186

(福祉・教育・道路整備・ごみ 収集等の事業を行う基本的会計)

2 特別会計 4,769 4,683

(国民健康保険や介護保険など22会計)

合計 9,999 9,869

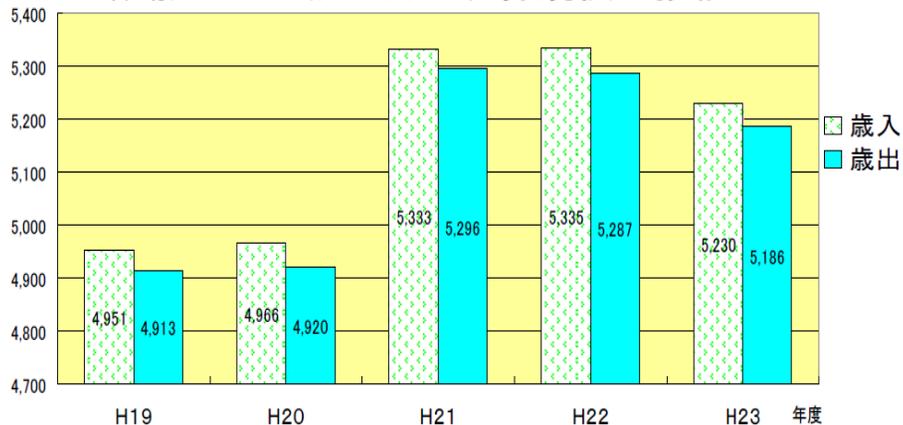
3 企業会計 (上水道・工業用水・交通・病院・下水道)

1 一般会計 (1) 概要

歳入は4年ぶりの減、

歳出は2年連続の減

単位: 億円 <一般会計の決算規模の推移>



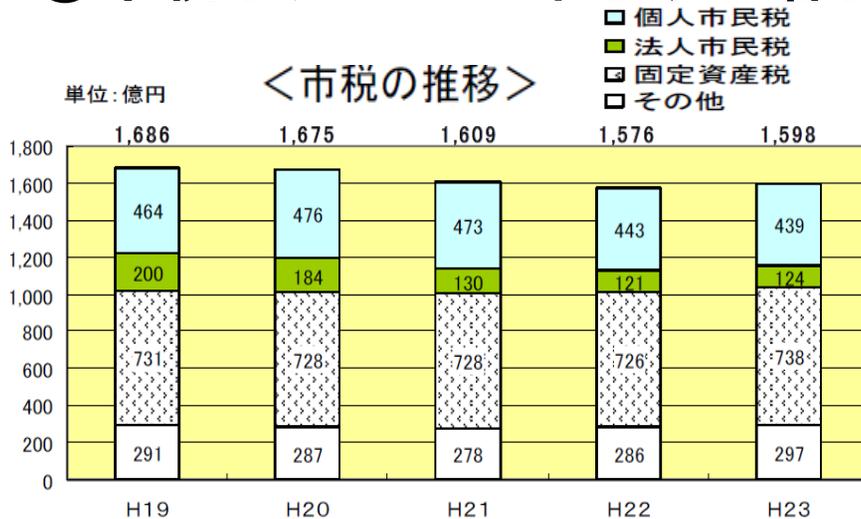
実質収支は45年連続の黒字

実質収支は形式収支(歳入-歳出)から翌年度に繰り越すべき財源を控除した決算額で、歳入の中には、前年度の実質収支が繰越金として含まれているため、実質収支には過去からの収支の赤字・黒字要素が含まれている。

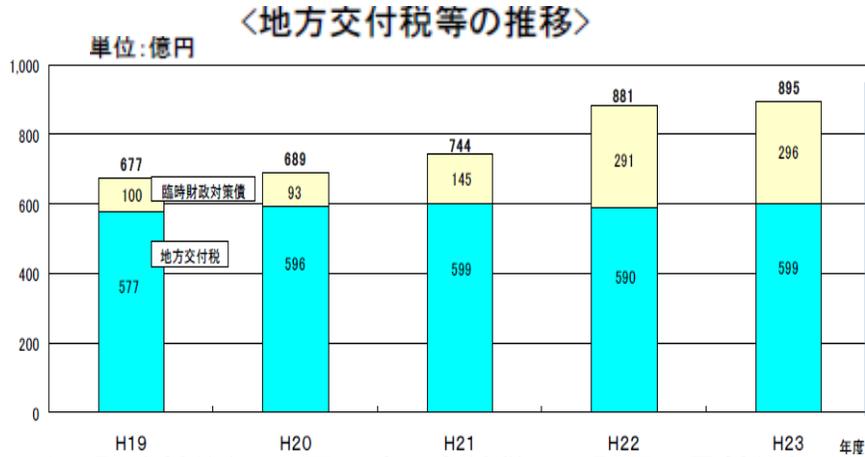
(単位:百万円)

区 分	23年度	22年度	増減額	増減率
歳入決算額(A)	522,999	533,477	△ 10,478	△ 2.0%
歳出決算額(B)	518,602	528,686	△ 10,084	△ 1.9%
形式収支(C=A-B)	4,397	4,791	△ 394	△ 8.2%
繰り越すべき財源(D)	2,609	3,223	△ 614	△ 19.1%
実質収支(E=C-D)	1,788	1,568	220	14.0%

(2) 歳入の主な特徴 ①市税収入・・・4年ぶりの増収

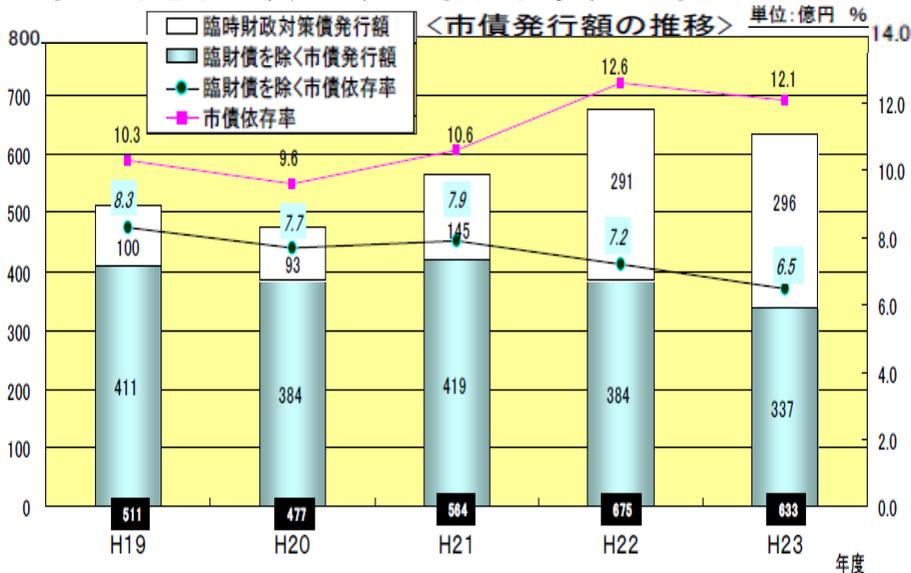


②地方交付税等 4年連続の増加



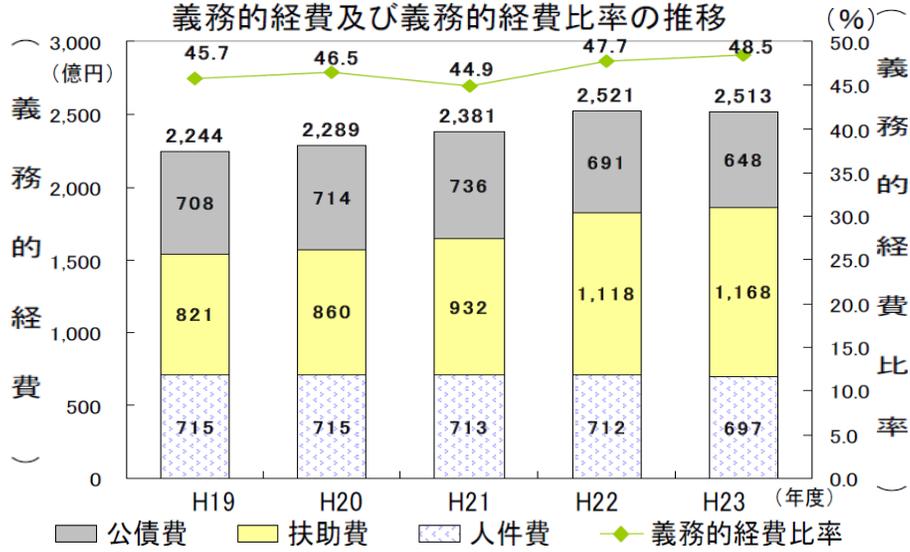
臨時財政対策債・・・国の地方交付税への財源不足対策として、平成13年度に創設された地方債。その元利償還金相当額については、全額が後年度地方交付税で措置される。

③市債発行額・・・臨時財政対策債を除く発行額は、対前年度46億円の減



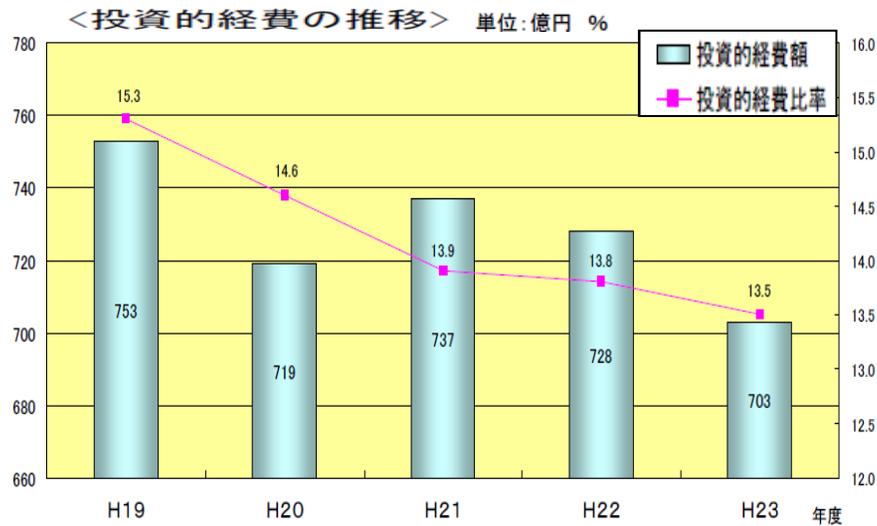
(3) 歳出(性質別)の主な特徴

① 義務的経費・・・6年ぶりに前年度を下回る

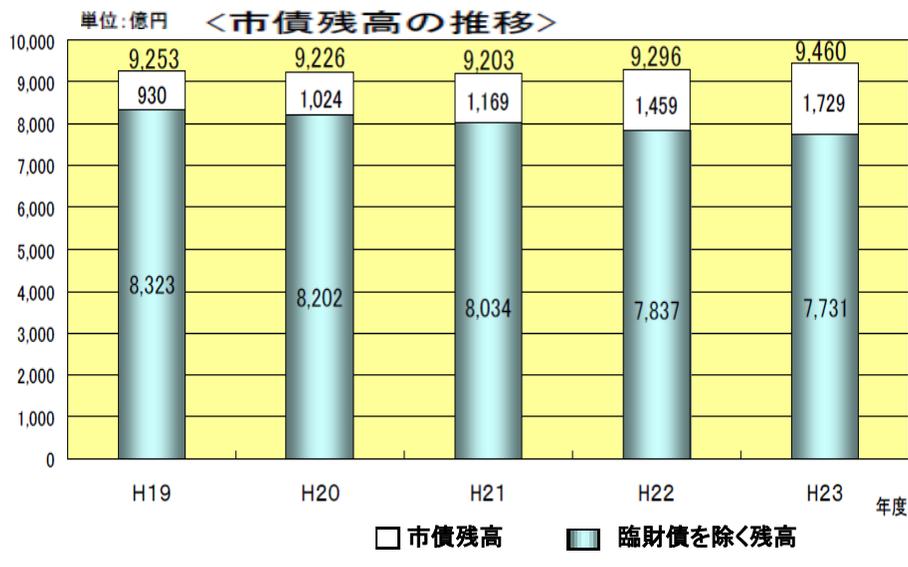


② 投資的経費・・・2年連続の減少

(建設事業費や災害復旧費など)



(4) 市債残高・・・臨時財政対策債を除く市債残高は、4年連続の減少



2 普通特別会計

(国民健康保険・介護保険など22会計)

実質収支は22会計中19会計が黒字

歳入決算額4,769億円

歳出決算額4,683億円

85億円の黒字

公債償還特別会計

土地取得特別会計

臨海部産業用地貸付特別会計

} 収
支
ゼ
ロ

3 企業会計

- ・病院事業 … 4年ぶりに不良債務を解消
- ・損益収支(収益-費用=利益)は上水道、工業用水、下水道事業の3会計が黒字
- ・交通事業会計は損益収支は6100万円の赤字
単年度実質収支は600万円の黒字

(単位:百万円)

区 分	上水道事業	工業用水道	交通事業	病院事業	下水道事業
損益収支 (収益-費用=利益)	1,098	331	△ 61	△ 273	13
単年度実質収支 (現金残高)	227	43	6	1,768	△ 226
平成23年度末資金剰余 (貯金)	5,328	1,483	1,633	1,012	2,828

平成23年度決算特別委員会

第1分科会審議報告



【報告者】

主 査: 鷹木研一郎

副主査: 浜口 恒博

暴追対策について



暴力追放総決起大会及び暴追運動

暴力追放に関する決議



平成24年9月18日 北九州市議会本会議

決議とは…議会の意思を対外的に表明するためになされる議決

質疑内容

現状 小倉北区・八幡西区の繁華街の犯罪発生状況
はまさに**危機的状況**

あらゆる**緊急対策**が必要

- 質疑
- ① 国家公安委員会、警察庁等
国に対する要請の内容
 - ② 防犯カメラ、監視カメラの公費での設置
 - ③ 標章地域への支援策

【当局の回答】

①国等に対する要請内容

(国等への要請)

- ・福岡県警察官の増員のために国全体として**警察官の増員**
- ・暴力追放のための**有効な捜査手段の導入**
- ・暴力団の所得に関する**税法違反等調査の徹底**

(県警本部長への要請)

- ・徹底した捜査による**一刻も早い犯人の検挙**
- ・全国規模のイベント（10月実施）における**警戒の徹底**

(全国の警察の応援)

- ・福岡県警察に対して、全国から、毎日平均して150人
応援体制

② 防犯カメラ、監視カメラの設置

- ◆ 当初予算：主要幹線道路沿いに設置
- ↓
- ◆ 検討：繁華街についても市による設置
- ↓
- ◆ 当局の回答：地元との調整がついたところから緊急措置として市が設置
- ↓
- ◆ 予算の流用や補正も考慮に入れ、防犯カメラの補助率、補助対象、補助地域の拡大等も考慮。

③ 標章地域への支援策

- ◆ 道路照明を明るくする
→小倉北区、八幡西区の繁華街にLED照明灯を36箇所増設（10月4日までに完了）
- ◆ 標章店舗関係者へ防犯ブザーを配布
- ◆ 繁華街の店舗への支援を呼びかけ
（北九州市暴力追放運動推進会議臨時総会）

災害対策について



東日本大震災後の釜石市と避難所

質疑内容

災害に対する有効な対策のひとつ→**地域体制**



- ① 地域の**市民防災会**に対しての情報提供
- ② 本市の**避難所指定**にあたっての基本的な考え方
- ③ 住民への**避難所の周知方法**と**避難所への避難訓練の実施**

【当局の回答】

① 地域の市民防災会に対しての情報提供

- ◆ 東日本大震災を受け、自主防災力の向上を図ることを目的に「集中防災啓発」を実施。
- ◆ 防災講座等において、
 - ① 避難所の位置情報、
 - ② 土砂災害や浸水などの危険区域、
 - ③ 地震や津波発生時の注意事項、
 - ④ 台風や大雨、雷に対する注意事項などについての情報提供
- ◆ 梅雨時期の前には、「市政だより」にて**防災特集**

共助の風土づくり、**地域防災力**の向上

② 避難所指定の基本的な考え方

- ◆ **民間等にも協力**を得て、災害時の住民の避難場所となる予定避難所を指定
- ◆ 毎年、区長が当該地域の災害特性、建物の構造等を調査し、施設管理者の同意を得て指定
- ◆ 市立の小中学校(193)、市民センター(130)の他、高校(11)、大学(4)、社会福祉法人や職業訓練法人(4)など、**官民を問わず、様々な施設を指定**(現在、473箇所)

住民の「**自助**」、地域社会の「**共助**」による防災

③-1 住民への避難所の周知方法

避難所への的確な誘導のために、

- ・各施設への「予定避難所」の表示板の設置、
- ・観光案内板に避難所情報を盛り込んだ「歩行者系サイン」の設置、
- ・ホームページ「防災情報 北九州」
- ・福岡県が配信している「防災メール」への避難所情報の掲載、
- ・区ごとに作成しております「防災情報マップ」への避難所情報の掲載

避難所の周知方法の多様化

③-2 避難所への避難訓練の実施

参加者の固定化や、訓練に対する住民の慣れなどの課題

住民が主体となった避難所宿泊体験訓練、
避難所運営訓練（HUG）の実施など更なる工夫が必要

災害時に住民一人ひとりが円滑に避難できるよう
避難環境の整備

建築消防委員会所管分

◆市営住宅空き家の
スピード募集実施について

◆市民にわかりやすい
住宅リフォーム助成制度
窓口の一本化について

市営住宅空き家のスピード募集実施について

【質疑の背景】

市営住宅の入替は、退去から次の入居まで平均7ヶ月



- ①空き期間を短縮し、家賃収入を増加すべき
- ②年3回に限らず、常時募集すべき と提案



空き家期間は5ヶ月に短縮
年間約5千2百万円収入増



市営住宅空き家のスピード募集実施について

【質疑】

空き家期間がさらに短くなるよう、民間法人にモデル委託を実施し、民間の経営感覚を導入できるよう検討、実現してほしい。



市営住宅空き家のスピード募集実施について

【当局の見解】

- 民間法人に委託する指定管理者制度は、数年おきに管理者が替わり、市の許可や承認等の権限を委譲できない。
- 民間の経営感覚を取り入れる意義は認識しており、平成26年度からの新たな契約に向けて、他都市の例も参考にしながら、研究を進めている。

市営住宅空き家のスピード募集実施について

【要 望】

モデル団地を定めて、民間委託の試行、効果、検証を行うなど、民間の経営感覚の導入に取り組んでほしい

常時募集の拡大に取り組んでほしい

市民にわかりやすい 住宅リフォーム助成制度窓口の一本化について

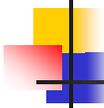
【質疑の背景】

●本市の住宅リフォーム助成制度

- ・すこやか住宅改造助成事業
- ・耐震改修工事の補助事業
- ・太陽光発電等の設置支援事業
- ・環境未来都市住宅リフォーム等促進事業 など



北九州市省CO2住宅普及促進事業は
1億円の予算が1割程度しか執行されていない。



市民にわかりやすい
住宅リフォーム助成制度窓口の一本化について

【質疑】

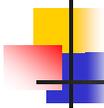
市民にわかりやすく、使いやすい制度にするために、窓口の一本化を進め、利用率アップを図るべき！



市民にわかりやすい
住宅リフォーム助成制度窓口の一本化について

【当局の見解】

- ・すこやか住宅普及促進事業
→各区役所の高齢者・障害者相談コーナーで
- ・耐震改修工事の補助事業 →市役所本庁舎で
- ・環境未来都市住宅リフォーム等促進事業
太陽光発電等の設置支援事業
→申請窓口の一本化を進める



市民にわかりやすい
住宅リフォーム助成制度窓口の一本化について

【要 望】

北九州市は築40年以上の家屋が7万戸に
上るため、これを放置すると老朽家屋になる。

他都市の助成制度の調査などを行い、利用
率を上げるための調査・研究を進めてほしい。



平成23年度決算特別委員会

第2分科会審議報告

報告者：赤松文雄議員・後藤雅秀議員

◆通学路の安全対策について

全小学校の通学路緊急点検

- 対応必要箇所 約570ヶ所
- 対策済み箇所 約140ヶ所
- 未対策箇所 約430ヶ所

◆通学路の安全対策について

北九州市内の歩行者の交通事故の概要

H14とH23の市内の子どもが関連した歩行者事故の比較

$$221 - 142 = 79 \quad \text{79件減少}$$

$$\frac{79}{221} = 0.357 \quad \text{36\%減少}$$

10年前に比べ、約4割減少

◆通学路の安全対策について

北九州市内の歩行者の交通事故の概要

市内の交通事故の推移

	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	備考
A 発生件数	9,516	10,081	9,833	10,049	9,941	9,085	9,114	8,701	8,859	9,137	
B うち歩行者事故 (歩行者事故の割合)	1,061 (11%)	1,089 (11%)	1,122 (11%)	1,126 (11%)	1,077 (11%)	934 (10%)	1,018 (11%)	947 (11%)	1,083 (12%)	915 (10%)	B/A
うち死者数	17	21	24	26	22	21	20	13	14	16	
C うち子どもが関連したの 事故(割合)	221 (2%)	223 (2%)	193 (2%)	210 (2%)	179 (2%)	165 (2%)	177 (2%)	152 (2%)	185 (2%)	142 (2%)	C/A
うち死者数	1	2	0	0	1	0	2	0	0	0	

◆認知症について

本市の高齢世帯の状況

平成22年度国勢調査によると

北九州市の419,984世帯のうち

- 高齢者の単身世帯 52,398世帯(12.4%)
- 老夫婦のみの世帯 49,224世帯(11.7%)
- 高齢者のみの世帯 101,622世帯(24.1%)

◆認知症について

本市の認知症高齢者数の推移

本市の認知症の高齢者(65歳以上)の数は、

平成15年 17,100人

↓ 77.3%増加

平成21年 30,325人(8人に1人)

◆認知症について

認知症サポーター等の養成状況

平成24年3月末現在

年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	累計
キャラバンメイト	71	31	34	46	22	30	234
認知症サポーター	968	9,573	4,335	4,523	6,919	4,871	31,189
合計	1,039	9,604	4,369	4,569	6,941	4,901	31,423

注:累計は平成18年度から平成23年度までの合計。

注:「キャラバンメイト」とは、認知症サポーター養成講座の講師になるために、所定のカリキュラムを修了したものの。

◆ 自殺対策について

精神疾患と四大疾病の状況

- 四大疾病の患者数(2008年の国の調査)
糖尿病 237万人 がん 152万人
脳卒中 134万人 心臓病 81万人
- 精神疾患 323万人
- 自殺者32,249人のうち、うつ病患者は
6,490人(5人に1人)

◆ 自殺対策について

各区の精神保健福祉相談窓口の強化

- 精神保健福祉相談担当係長の配置
門司区・小倉北区・小倉南区・八幡西区
- 心理職の配置
八幡西区
- 精神保健福祉士の配置

◆自殺対策について

「(仮称)地域自殺予防情報センター」

- 自死遺族や自殺未遂者に対する相談支援
- 区役所などの窓口担当者への支援・研修
- インターネット等を活用した情報発信

◆自殺対策について

平成23年 北九州市の自殺者の状況

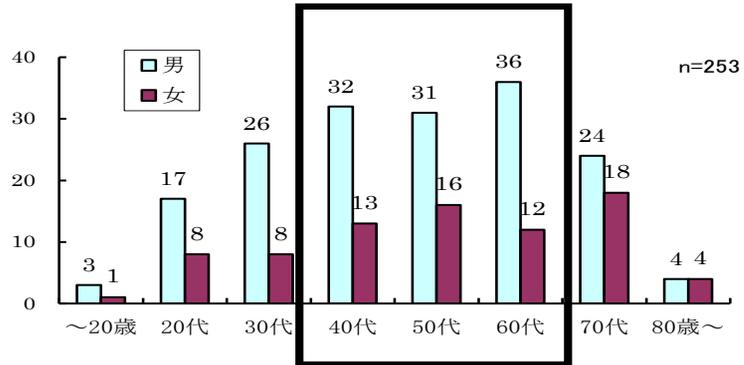
年齢別

年代	自殺者数	男	女
20歳未満	4	3	1
20代	25	17	8
30代	34	26	8
40代	45	32	13
50代	47	31	16
60代	48	36	12
70代	42	24	18
80歳以上	8	4	4
不詳	0	0	0
計	253	173	80

◆自殺対策について

平成23年 北九州市の自殺者の状況

年齢別



◆市立八幡病院の建て替えについて



◆市立八幡病院の建て替えについて

- 整備費用100億円超
- 現地での建て替えは困難なため移転(建設予定地は未定)
- 平成25年度 基本計画
- 平成26年度 設計・施工開始
- 平成29年度 開院予定
- 救急医療を中心に小児医療・災害医療を充実、地域医療支援病院を目指す

平成23年度決算特別委員会

第3分科会報告

《報告者》

主査: 荒川 徹

副主査: 渡辺 徹

「読書好きな 子ども日本一」

の取り組みについて

■ 質疑内容

● 質疑…「読書好きな子ども日本一」の取
り組みについて

① 平成23の取り組み

② 「小学生チャレンジ読書365」「中学生
チャレンジ読書180」の提案



□当局答弁

●答弁

- ①小中学校の図書館への空調設備設置、図書
の整備充実を行なった
- ②これまでの、10分間読書など各学校の実
態に応じた取り組みに加え、子どもたちが
読書の達成感を感じとり、進んで読書に向
かう取り組みのあり方について検討したい。

図書館利用増

の取り組みについて

■ 質疑内容

- 質疑…「図書館利用増の取り組み」

「ひまわり文庫」と連携し、市民センターで予約、受け取りができる仕組みを

□当局答弁

●答弁

市民センターでの予約、受け取り

- ①多額の経費を要すること、センター業務に負担が生じるなど、実現は難しい
- ②利用者増へ「魅力ある図書館のあり方を、時機をみて図書館協議会での議論を始めたい



門司図書館・大里分館(外観)

門司図書館・大里分館(内部)

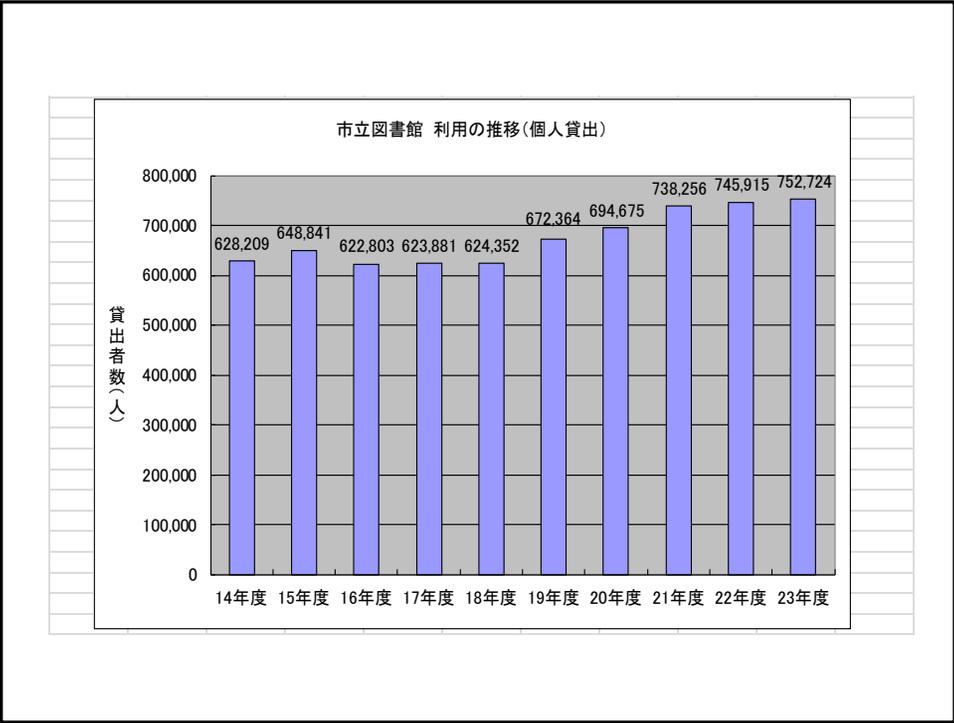
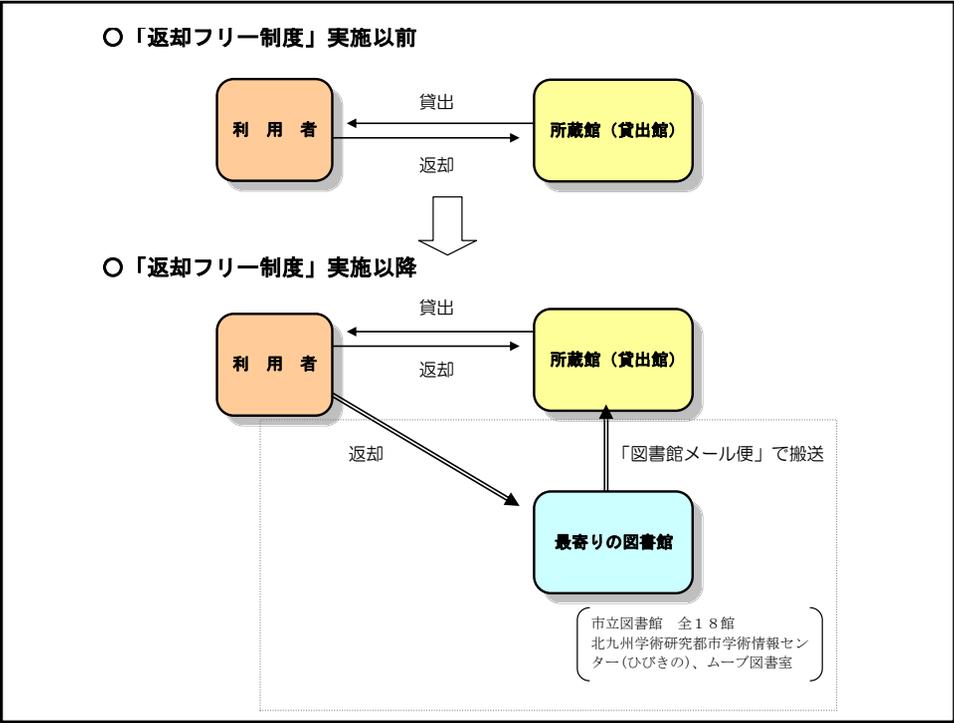


市立図書館における 図書の「返却フリー制度」について(概要)

【返却フリー制度の内容】

「返却フリー制度」に取り組む以前の利用者は、市立図書館で借りた本は、借りた図書館に返却することにしていましたが、さらなる市民サービスの向上を図るため、「返却フリー制度」に取り組み、最寄りのいずれの図書館でも本を返却できる仕組みを導入しました。

- ◆ 実施時期 平成22年8月から
- ◆ 対象施設 ・市立図書館(全18館)
 - ・関連2施設(北九州学術研究都市学術情報センターひびきの、ムーブ図書室)
- ◆ 適用除外図書・市外の図書館から借りたもの
 - ・特別貸出資料(特別な許可を得て貸し出した貴重な本や辞典など)
 - ・地域や学校などの団体に特別に貸し出したもの
 - ・ひまわり貸出文庫(市民センター等に設置のもの)
 - ・団体貸出文庫(幼稚園・保育所・病院などの登録団体に設置のもの)
 - ・大型絵本、大型紙芝居





八幡西図書館(外観)



八幡西図書館・3階全景



旧戸畑区役所庁舎

新戸畑図書館・2階閲覧スペース
(イメージ)



市民の雇用確保 中小企業の振興対策 の取り組みについて

■ 質疑内容

- 質疑…東芝北九州工場閉鎖の影響を含めて、今後の推移は予断を許さない
そうしたなかで、市民の雇用確保、
若者の就職状況への対応など、当
面の雇用機会創出の取り組みに
ついて

□ 当局答弁

● 答弁

- ・安定した雇用の実現は、市民が安心して暮らすための一番の基本
- ・若者、女性、高齢者を含め雇用機会の創出と、求職と求人のきめ細かなマッチングの取り組みが重要
- ・当面、「正規雇用就職支援事業」として「若年求職者マッチング支援事業」の実施など

従業員の利用状況

●過去1年間の正社員採用比率

男性 51.8%

女性 38.3%

■質疑内容

●質疑

…本市産業及び中小企業振興の基本
となる

「北九州市中小企業
振興基本条例」の制定を

□当局答弁

●答弁

新たに策定する成長戦略に基づき、中小企業の支援を着実に実施することが重要それを踏まえて、市内の中小企業者や関係団体、支援機関等の意見を聞きながら「中小企業振興基本条例」の制定を検討したい。

平成23年度
北九州市雇用動向調査報告書より

●北九州市経済

平成23年度前半まで緩やかな回復基調

↓

海外経済の減速、円高を背景に

製造業の生産減少

景況悪化懸念の急浮上

市内事業所の業況判断

**過去1年間で 企業マインドが委縮
業況感DI**

(好転しているという事業所割合
－ 悪化しているという事業所割合)

マイナス11.7^{ポイント} → マイナス12.3^{ポイント}

商業施設の活性化

の取り組みについて

■ 質疑内容

● 質疑

- ①ラフォーレ原宿小倉跡地、黒崎のコムシティのこれまでの経過を踏まえた見解
- ②テナントビルの空きスペースやシャッター商店街に店舗を誘致提案するための専門部署を市役所につくることを提案する

□ 当局答弁

● 答弁

- ①事業者はもとより、商工会議所やまちづくり団体、地元商業者、議会、行政が一丸となってラフォーレ原宿跡地が再生できたことは感慨深い。黒崎のコムシティも同様である。
- ②民間による激しい競争の中で、行政が特定施設誘致に直接関与することは適当でない魅力ある店舗や商業施設の進出に向けて環境づくりに努めたい



あるあるシティ・外観

